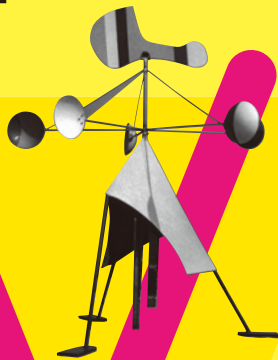


UBE BIENNALE

UBE International Sculpture Competition



なぜ宇部にはたくさん彫刻があるの？

Why彫刻？

再発見



Why彫刻？ -UBEビエンナーレ再発見I-

2023.4/1(土) → 6/18(日)

10:00 → 16:00【火曜日休館】※4月4日、5月2日は開館

入場無料

会場 / ときわ湖水ホール アートギャラリー

山口県宇部市大字沖宇部254番地(宇部市ときわ公園内)

[主催]宇部市

左上から、新宮晋(星の計算機) / 三木富雄(Ear) / 梅本昭(四つの四角のモニュメント) / 柳原義達(座る) / 藤本美弘(揺車) / 木村賢太郎(作品37) / 小谷謙(記念碑) / 柳原義達(犬の唄) / 堀内正和(ななめの円錐をななめに通りぬける円筒) / 井上玲子(風よ)

UBEビエンナーレ再発見

I

UBEビエンナーレ再発見 I

今年第30回展の作品公募を開始するUBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)。
その始まりは1961年に開催された宇部市野外彫刻展でした。市民運動を契機とした市の彫刻設置事業が、当時の神奈川県立近代美術館副館長であった土方定一や彫刻家の柳原義達、向井良吉らの賛同を得て展覧会という形に結びつきました。なぜ宇部にはたくさんの彫刻があるの? 開催ごとに変化を遂げてきた1960年代、70年代の「UBEビエンナーレ」を取り上げ、その特徴を関連作品や写真で振り返ります。宇部と彫刻の繋がりを再発見してみましょう。

Why 彫刻?

どのように開催してきた?

UBEビエンナーレは招待作家の作品展示という形で始まり、開催年ごとに変化を遂げていきます。コンクールを開催し、新人作家の発掘・紹介に力を注ぐなど、宇部市内だけでなくどまらず、日本の彫刻界全体への視点も伺えます。開催形態の変遷からその試行錯誤の跡をたどります。

どのような素材が使われてきた?

初期の展覧会では、石、鉄、ブロンズ、コンクリートが多く使用されていましたが、その後、新たに真鍮、アクリル、プラスチック、ステンレスなど素材が多様化し、70年代になると企業から材料の提供を受けるようになります。素材の変遷をコレクション作品の展示を中心に紹介します。

どのように受け取られてきた?

当時の新聞や記録写真を中心に、UBEビエンナーレがどのように報道されていたか、市民をはじめとした来場者はどのように野外彫刻を楽しんでいたのかを紹介します。

- 1 中島快彦《華》1961年
- 2 湯原和夫《無題No.2-66(原題:作品)》1967年
- 3 木村光佑《Relation(カプセル-小宇宙)》1973年
- 4 向井良吉《四角な太陽[素描]》1977年
- 5 福田繁雄《SAMPLE》1977年
- 6 田中 薫《正五角形のピラミッド》1979年



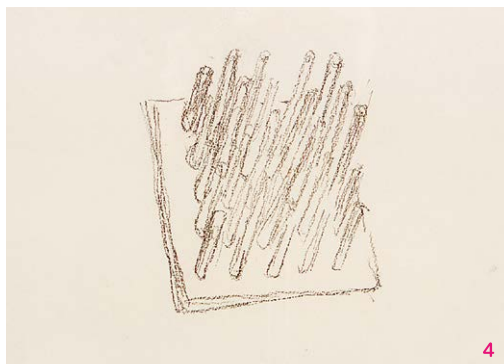
1



2



3



4



5



6

【お問い合わせ先】

宇部市文化振興課UBEビエンナーレ推進係 TEL:0836-34-8562 FAX:0836-22-6083
E-mail:museum@city.ube.yamaguchi.jp URL:https://ubebienennale.com

UBE BIENNALE

UBE International Sculpture Competition

宇部市の野外彫刻は200点超!
詳しくはウェブサイトをご覧ください。



【会場へのアクセス】

◎市営バス

「湖水ホール入口」から徒歩3分
「ときわミュージアム」から徒歩10分
「ときわ公園」から徒歩10分
「ときわ公園入口」から徒歩15分

◎JR

「新山口駅」から「ときわ公園入口」まで特急バス30分
「新山口駅」から「常盤駅」まで宇部線で30分
「宇部駅」から「常盤駅」まで宇部線で30分
※「常盤駅」から徒歩20分

◎車

山陽自動車道「宇部I.C.」から15分
山口宇部道路「宇部南I.C.」から5分
「山口宇部空港」から5分
※「ときわ公園東駐車場」が最寄りです

